

神戸市立葦合高校 プレゼンテーションに必要な技能およびレベル別尺度 (CFF=Common Fukiai Framework)

* 改訂進行中

レベル	全体的特長		聞くこと	話すこと	読むこと
F	細かい意味のニュアンスを正確に伝えることができる段階である。慣用的な表現も使いこなせることができる		生であれ、放送されたものであれ、母語話者の速いスピードで話されても難なく理解することができる。	聞き手が要点を記憶、あるいは後で思い出す際に足がかりになるような、論理的な構造を持つ、流れの良い、構成のしっかりしたスピーチができる。	抽象的で構造的に複雑なあらゆる形式のテキストについて批判的に解釈できる。意味や文体の微妙な違いを味わい、明示的な意味と同時に暗示的な意味も味わいながら幅広い分野にわたって理解できる。
E	言語を効果的に操作できる段階である。ほとんど苦労しないで流暢に自然に自分を表現することができる。また、言い換えによって欠けたところを十分に補えるだけの豊富な語彙がある。自分の意見を言う前に、豊富な語句の中から適切なものを選択して表現でき、メリハリのある話ができる。また、コミュニケーション方略を駆使し、発言権を相手に渡さない能力を持っている。		特定の専門分野の議論であっても、ある程度身近な範囲であり、標準的なスピードで話されれば、かなり複雑な話の要点を理解できる。	抽象的、複雑な話題でも、ディベートに容易についていくことができる。説得力を持って公式に主張を展開でき、質問やコメントに応じることができる。また相当数の俗語や慣用語表現のある映画が理解できる。	ある程度長い、複雑なテキストを詳細な点まで理解できる。含意された意見や立場も含む詳細な点まで理解できる
D	やり取り能力がかなり進んだ段階である。語彙数には限界があるが、発言内容に矛盾点がなく一貫性があり、結論とその根拠が明確である。また、情報収集力に優れ、外国人に質問したり、メディアから情報を集めたものを簡潔にまとめて発表できる。やり取りにおいてquick responseが比較的可能で、相手の意見と自分の意見を比較・対照しながら表現することができる	2	扱う内容の概要について自分の意見を持ちながら、批判的に聞くことができ、質問できる。	学習済みの時事問題の発表について、少しの準備と練習があれば、流暢かつ論理的に表現することができる。また、その内容について質問を受けた場合、quick responseで自分の意見と、その理由を簡潔に述べることができる。ただ、言葉や表現方法を探すための休止が時々学習済みの日常的な話題について、準備なく流暢かつ論理的に表現することができる。また、その内容に関する質問についてquick responseで自分の意見とその理由を簡潔に述べるができる。ただ、言葉や表現方法を探すための休止が時々見られる。	さまざまなメディア媒体から、ざっと目を通しただけで、複雑なテキストの概要を読み取るができる。また、パラグラフごとに情報、意見、考えを比較的短時間で読み取り、要約することができ、第三者に話し言葉、書き言葉で伝えることができる。読みが自動化され、自然に理解ができていく段階である。
		1	扱う内容の概要について予備資料があれば理解でき、話し言葉、書き言葉で簡潔に要約することができる。	授業で扱う時事問題の発表について、十分な準備と練習があれば、流暢かつ論理的に表現することができる。話ししていることが理解できる。授業で扱った内容であれば、quick responseで自分の意見と、その理由を簡潔に述べるができるが、言葉や表現方法を探すための休止が時々見られる。	
C	情報の概要を捉えることに優れている段階である。話し言葉、書き言葉の両方において理解力に優れその内容を簡潔にまとめることができる。学習した内容であればかなり自然とコミュニケーションがとれ、breakdownを起こすことは稀である。表現内容についてもglobal errorはほとんど見られない。communication strategyはかなり所有している。	2	扱う内容の概要について自分の意見を持ちながら、批判的に聞くことができ、質問できる。	授業で扱う時事問題の発表について、十分な準備と練習があれば、流暢かつ論理的に表現することができる。話ししていることが理解できる。授業で扱った内容であれば、quick responseで自分の意見と、その理由を簡潔に述べることができるが、言葉や表現方法を探すための休止が時々見られる。	必要な情報を見つけるために、テキストにざっと目を通して情報を収集することができる。これを実現させるための1文内におけるチャンク分けが可能であり、自然に文章理解ができていく。また、明確に主張されているテキストの結論部分は正確に把握できる。詳細部についてはやや不安定な理解にとどまる。
		1	扱う内容の概要について予備資料があれば理解でき、話し言葉、書き言葉で簡潔に要約することができる。	日常的な話題であれば、準備なく流暢かつ論理的に表現することができる。話ししていることが理解できる。また、quick responseで自分の意見とその理由を簡潔に述べることができるが、言葉や表現方法を探すための休止が時々見られる。	
B	コミュニケーションへの積極的参加が見られる段階である。日常的な話題については、はじめることも終わらせることも可能で、何とかやり取りを維持できる。表現内容に限界があり、global errorもたまに見られる。理解においても情報が多方面にわたると、要点を理解できない場合がある。発言内容は詳しく述べることには限界があるが、自分の表現したいメッセージは相手に伝えることができる。理解する時のノートテキングの上達が見られる時期である。		身近な話題であればほぼ正確に理解でき、簡単な形式で書き言葉でまとめることができる段階である。ただ、やや複雑な日常的な話題では、原因-結果などの因果関係を理解できない状態が見られる。理解したことを話し言葉で第三者に紹介することは時間をかければ可能である。参考データ: 英検準2級以上2級以下	身近な話題について、単純な構文を使って比較的流暢に話す段階である(60WPM)。また、communication strategyを使う様子が見られる時期で、自分の考えを相手に何とか伝えることができる。ただ、語彙数が少なく、一度に多くの情報を表現することには限界がある。学習したもので、口頭練習するなどの時間をかければ、社会問題における自分の考えを比較的流暢に話すことができる。	2000語レベルの日常的な話題についてのテキストは、辞書を使わなくても概要を把握することが比較的短時間ででき、書き言葉で概要をまとめることができる。時事問題については、学習済みのものであれば、適切に書き言葉、話し言葉で要約することができる。参考データ: 英検準2級以上2級以下
A	自分と直接関係のある内容について表現でき、理解できる段階である。表現内容は、かなり単純化されている。また理解においては、身近な内容なら要点を把握することができる。語彙数、表現方法にかなり限界があり、breakdownは頻繁に起こり、global errorも多々見られる。援助があれば、比較的長く会話を続けられ、予測可能な話題については時間をかければコミュニケーションを維持できる。		日本人教師によりゆっくりと話されれば指示や説明は理解できる段階である。また、英検3級程度のグラフや絵の描写に関する情報は聞き取ることができる。ただ、長時間、援助なく聞き続けることには限界がある。	自己紹介を準備せずに比較的流暢にできる段階である。また予測可能な簡単な質問には簡単な表現を使って答えることができる。学習したこと、練習したことの発言が中心で、quick responseを求めると日本語を英語に置き換えている様子が見え、breakdownが起こる。	1000語レベルの身近な話題について書かれたテキストから特定の情報を取り出すことができる。また、少し時間をかければ要点をテキストで使われた表現を用いながら書き言葉でまとめることができる。話し言葉や表現を変えながら要約するほど理解することには限界がある。

第1学年CFFテスト内容(学年末)

	SKILL	目標内容	CFFレベル	テスト内容	通過率
1	LISTENING	日本人教師によりゆっくりと話されれば指示や説明は理解できる段階である。また、英検3級程度のグラフや絵の描写に関する情報は聞き取ることができる。ただ、長時間、援助なく聞き続けることには限界がある。	A	英検3級レベルの内容で、図、グラフの内容を聞き取る	95%
2	SPEAKING	自己紹介を準備せずに比較的流暢にできる段階である。また予測可能な簡単な質問には簡単な表現を使って答えることができる。学習したこと、練習したことの発言が中心で、quick responseを求めると日本語を英語に置き換えている様子がうかがえ、breakdownが起こる。	A	自己紹介、家族紹介を5分以内で準備なく話し録音する	95%
3	READING	1000語レベルの身近な話題について書かれたテキストから特定の情報を取り出すことができる。また、少し時間をかければ要点をテキストで使われた表現を用いながら書き言葉でまとめることができる。話し言葉や表現を変えながら要約するほど理解することには限界がある。	A	英検3級程度の内容把握問題(選択式)。読んだものをもとの原稿を見ずにサマリーを書く。また、別の同程度のテキストをオーラルサマリーする	82%
4	WRITING	自己紹介文を書いたり、1000語レベルの本の感想を簡単な形式を使って記述することができる。また、自分と直接関係する内容であれば30分程度で100語以上のエッセイが情報を羅列しながら書ける。global errorは頻繁に見られる。	A	過去の楽しかったこと、悲しかったことについて30分間で、200語程度の英文を書く	89%
5	INTERACTION (SPEAKING)	身近で予測可能なまたは目的が明確な情報交換が可能な段階である。また、学習済みで十分練習されたものであれば、やや複雑で詳細な内容に関するやり取りはできる。表現と理解のそれぞれに時間がかかり、お互いに相手の助けが必要である。2分が限度である。	A	・贈り物をペアで相談し、理由を示して決める ・電話による会話でペアで遊びの約束を決める	87%

第2学年CFFテスト内容(学年末)

	SKILL	目標内容	CFFレベル	テスト内容	通過率
1	LISTENING	身近な話題であればほぼ正確に理解でき、簡単な形式で書き言葉でまとめることができる段階である。ただ、やや複雑な日常的な話題では、原因-結果などの因果関係を理解できない状態が見られる。理解したことを話し言葉で第三者に紹介することは時間をかければ可能である。参考データ:英検準2級以上2級以下	B	英検準2級および2級 1回聞き ・応答文選択式 ・内容理解→日本語による応答	22.50%
2	SPEAKING	身近な話題について、単純な構文を使って比較的流暢に話す段階である(60WPM)。また、communication strategyを使う様子が見られる時期で、自分の考えを相手に何とか伝えることができる。ただ、語彙数が少なく、一度に多くの情報を表現することには限界がある。学習したもので、口頭練習するなどの時間をかければ、社会問題における自分の考えを比較的流暢に話すことができる。	B	日本文化紹介 60WPM以上	35.70%
3	READING	2000語レベルの日常的な話題についてのテキストは、辞書を使わなくても概要を把握することが比較的短時間ででき、書き言葉で概要をまとめることができる。時事問題については、学習済みのものであれば、適切に書き言葉、話し言葉で要約することができる。参考データ:英検準2級以上2級以下	B	英検準2級および2級(35分→1700語を読む) ・空所補充 ・内容理解選択式	26%
4	WRITING	自分と直接関係する内容は30分で200語程度書くことができ、授業で扱った社会問題に関する自分の意見は、簡単な形式で書くことができる。主語と動詞の関係や基本的な接続詞は使いこなせ、主張-理由-具体例などのパラグラフを意識した記述になっている。詳細に記述しようとするとglobal errorが見られる。	B	社会問題(現状・原因・解決策) 30分→300語程度	66.00%
5	INTERACTION (SPEAKING)	身近な話題であれば4分程度会話を続けることができる。また、学習したことをもとに準備すれば社会問題に対する自分の考えを相手と意見交換できる。global errorが時々見られ、会話が続かなくなることもある段階である。形式は単純な文を羅列したものが中心であるが、CSを使いながら何とか会話を続けようと努力する姿が見受けられる。グループ・ディスカッションは教師(ALT/JTE)の司会の下であれば10分程度可能である。	B	ALT司会のもと4人グループで10分間ディスカッション ・High school students should not have any homework. ・Entrance exams for college should be abolished. ・High school students should not have cell phone.	45.70%
6	INTERACTION (WRITING)	身近な話題であれば、読んだ内容の一部を効果的に使い、自分の意見をパラグラフを意識した表現で、比較的まとまった文を書くことができる。2000語レベルの本を読んだ後、20分程度で、100語程度の感想文を書くことができる。社会問題についての相手の意見に対するコメントは、学習済みのものであれば比較的短時間で、かなり正確に表現することができる。	B	15分 英検準2級レベルの英文(135語)を読む→ ・概要を日本語で書く ・意見を100語程度で書く	51.50%

書くこと	やり取りすること(話すこと)	やり取りすること(書くこと)	プレゼンテーション
Eレベルと同じ	日本人だけでなく英語母語話者とも国際問題等、かなり専門的なことに対しても意見交換ができる。また、ある分野の専門家から必要な情報を聞き取り、自分の考えと比較しながら応答することができる。	Eレベルと同じ	国連防災会議をはじめ国際高校生サミットに参加し、日本人だけでなく他国の人との前で、自身を持ってはっきりと内容を伝えることができる。また、質問にたいして相手が納得のいく応答をすることができる。
複雑な話題について、明瞭できちんとした構造を持ったテキストを書くことができる。関連性のある重要点を強調して、補助的事項、理由を詳細に加えて論点を展開し、維持していくことができる。	慣用表現や交互表現をかなり使いこなすことができ、相手の発言のコンテキストまで気づき対応することができる。かなりの確率に修飾を加えることによって正確に細かいニュアンスまで伝えることができる。	自分が述べたいことをはっきりと正確に表現することができ、受取人に対して、柔軟に効果的に対応することができる。	話題について知識のない聴衆に対しても、自信を持ってはっきりと複雑な内容を口頭発表できる。聴衆の必要性に合わせて柔軟に話を構造化し、変えていくことができる。
扱う内容について、明確な説明文を書くことができる。パラグラフ構成、修辭法が正確である。	比較的自然的に会話をはじめ、終わらせることができる。学習した内容やその関連分野において自分の考えを根拠に基づいて明確に述べるができる。また、相手の意見を正確に把握し、会話より進展するよう工夫しながら会話を続けることができる。不自然な休止はなくbreakdownは起こらない。	時事問題など比較的複雑な内容を理解した上で、比較的短時間に自分の考え、理由を明確に表現できる。また、相手の意見に対して、反対、賛成の意見を根拠を明確にした上で述べることができる。global errorはほとんど見られない。メールでのやり取りを頻繁に行う段階である。	複数の国際問題についてリサーチした上で、視聴覚機器を使いながら、事実関係をレポートし、自分の考えを適切に述べた後、聴衆と意見交換でき、ディスカッションを経由して修正案により、最終的に行動計画をまとめて打ち出すことができる。
扱う内容について、明確な説明文を書くことができる。パラグラフ構成、談話構成が明確で、自分の考え、結論、理由を相手に理解してもらうことが可能である。豊富な語彙選択、記述内容に明確な根拠を示すことができる。	社会問題、国際問題であっても簡単な形式を使いながら、やり取りすることができる。準備すれば比較的詳細な内容についての意見交換もできる。言葉を探すための休止は時々見られるが、breakdownは起こさず、会話を続けることができる。日常的内容であれば比較的流暢にやり取りができる。	日常的な話題であればあまり苦勞せずに情報の交換ができる段階である。学習済みの内容であればやや複雑な時事問題についての記事を読んで、自分の考えを表現し、第三者と意見交換することも可能である。global errorはたまに見られるが、コミュニケーションは十分に成立する程度である。	学習した社会問題、国際問題を発展させ自分で関連情報をリサーチした上で、レポートにまとめた後、グラフ、図を示し、メモを見ながら事実関係と自分の考えを明確にプレゼンテーションすることができる。その後、聴衆と予測可能な質疑応答が比較的スムーズにできる。
自分の言葉を使いながら重文、複文を用いて、扱った内容についてのエッセイや感想を400語程度で比較的短時間で論理的に書くことができる。各パラグラフ間の構成もよい。	身近な話題であれば4分程度会話を続けることができる。また、学習したことをもとに準備すれば社会問題に対する自分の考えを相手と意見交換できる。global errorが時々見られ、会話が続かなくなることもある段階である。形式は単純な文を羅列したものが中心であるが、CSを使いながら何とか会話を続けようとする姿が見受けられる。グループ・ディスカッションは教師(ALT/JTE)の司会の下であれば10分程度可能である。	身近な話題であれば、読んだ内容の一部を効果的に使い、自分の意見をパラグラフを意識した表現で、比較的まとまった文を書くことができる。200語レベルの本を読んだ後、20分程度で、100語程度の感想文を書くことができる。社会問題についての相手の意見に対するコメントは、学習済みのものであれば比較的短時間で、かなり正確に表現することができる。	学習した日常的话题について、パラグラフ構成が比較的明確な原稿に基づきプレゼンテーションすることができる。10分程度でグループで協力しながら比較的自然的な言葉遣いで表現することができる。発表後のやり取りでは予測可能なものについては質問に答えたり、追加情報を述べることができる。
扱う内容について1~2パラグラフ・レベルの平易な英文ではあるが論理的に書くことができ、相手に理解してもらうことが可能である。Global Errorはほとんど見られない。	身近な話題であれば4分程度会話を続けることができる。また、学習したことをもとに準備すれば社会問題に対する自分の考えを相手と意見交換できる。global errorが時々見られ、会話が続かなくなることもある段階である。形式は単純な文を羅列したものが中心であるが、CSを使いながら何とか会話を続けようとする姿が見受けられる。グループ・ディスカッションは教師(ALT/JTE)の司会の下であれば10分程度可能である。	身近な話題であれば、読んだ内容の一部を効果的に使い、自分の意見をパラグラフを意識した表現で、比較的まとまった文を書くことができる。200語レベルの本を読んだ後、20分程度で、100語程度の感想文を書くことができる。社会問題についての相手の意見に対するコメントは、学習済みのものであれば比較的短時間で、かなり正確に表現することができる。	学習した日常的话题について、パラグラフ構成が比較的明確な原稿に基づきプレゼンテーションすることができる。10分程度でグループで協力しながら比較的自然的な言葉遣いで表現することができる。発表後のやり取りでは予測可能なものについては質問に答えたり、追加情報を述べることができる。
自分と直接関係する内容は30分で200語程度書くことができ、授業で扱った社会問題に関する自分の意見は、簡単な形式で書くことができる。主語と動詞の関係や基本的な接続詞は使いこなせ、主張一理由一具体例などのパラグラフを意識した記述になっている。詳細に記述しようとするglobal errorが見られる。	身近な話題であれば4分程度会話を続けることができる。また、学習したことをもとに準備すれば社会問題に対する自分の考えを相手と意見交換できる。global errorが時々見られ、会話が続かなくなることもある段階である。形式は単純な文を羅列したものが中心であるが、CSを使いながら何とか会話を続けようとする姿が見受けられる。グループ・ディスカッションは教師(ALT/JTE)の司会の下であれば10分程度可能である。	身近な話題であれば、読んだ内容の一部を効果的に使い、自分の意見をパラグラフを意識した表現で、比較的まとまった文を書くことができる。200語レベルの本を読んだ後、20分程度で、100語程度の感想文を書くことができる。社会問題についての相手の意見に対するコメントは、学習済みのものであれば比較的短時間で、かなり正確に表現することができる。	学習した日常的话题について、パラグラフ構成が比較的明確な原稿に基づきプレゼンテーションすることができる。10分程度でグループで協力しながら比較的自然的な言葉遣いで表現することができる。発表後のやり取りでは予測可能なものについては質問に答えたり、追加情報を述べることができる。
自己紹介文を書いたり、1000語レベルの本の感想を羅列的に、簡単な形式を使って記述することができる。また、自分と直接関係する内容であれば30分程度で100語程度のエッセイが情報を羅列しながら書ける。global errorは頻繁に見られる。	身近な話題であれば4分程度会話を続けることができる。また、学習したことをもとに準備すれば社会問題に対する自分の考えを相手と意見交換できる。global errorが時々見られ、会話が続かなくなることもある段階である。形式は単純な文を羅列したものが中心であるが、CSを使いながら何とか会話を続けようとする姿が見受けられる。グループ・ディスカッションは教師(ALT/JTE)の司会の下であれば10分程度可能である。	学習済みのディベートやディスカッションのテーマについて意見交換ができた。言語形式は単純であるが、学習した形式を使いやり取りすることは可能である。ただ、語順の誤りなどのglobal errorが目立つためコミュニケーションが続かないこともある。L-WIには限界がある。	学習済みで、十分練習したものであれば身近なまたは日常的话题についてのプレゼンテーションができる。グループで5分が限度であるが、絵を使いながら効果的に表現することができる。また、自分と直接関係する経験談等では比較的流暢にSHOW & TELLができる。